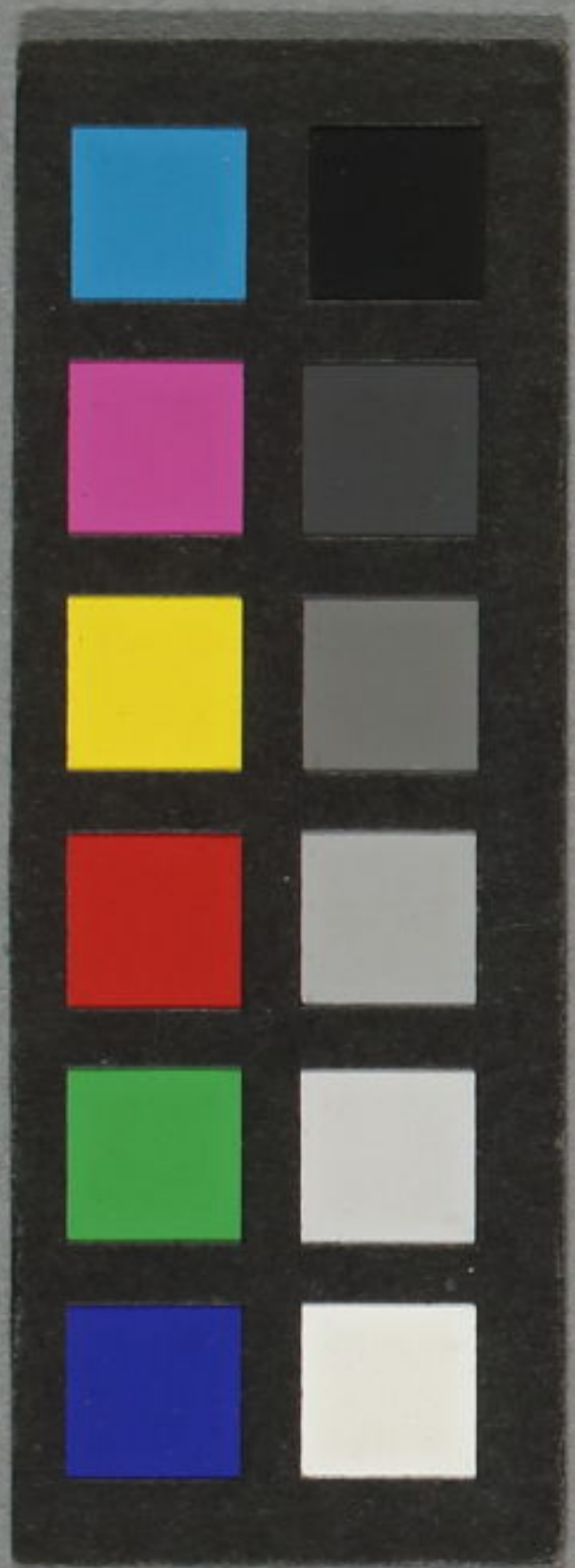




明治二十三年八月十九日
 肅
 湯治日記
 伊香保

早稲田大学図書館
 文書 27
 A 72



丹十九日日記

十九日 一度

一朝四時前起、五時半

家ヲ発シテ野至、六時

発、漆車ニ乘リ玉子

赤羽ツ等ヲ過テ前橋至

ル臨線樓ニ於テ食事ヲ

成ス後車ニ乗ジ澁河ニ至

是就テ四方温、甲保ト

行キテ評、香保ト

一行ヲ好シ

ノ遂ニ伊

ニ於テ又

遊シ且止

温泉宿
 一連三駟
 三階ニ居ル
 當年大ニ不
 少シ此日途次
 テ深間
 顔ヨ白雲
 リハ馬場
 君未



此河原
 金條赤色ヲ
 全條赤色ヲ

十九日 清天三度

八時三十分

一朝六時ニ起キ入湯ニ朝飯ヲ
 宅ス後ハ森澤牧人様御出
 今日播名ハ見物ニ行カントシタ
 下七時刻選レタ故金比密
 遊ビニ牧人様ノ登リ頂
 吹きぬ茶店ヲ開キ是ニ麥
 湯ヲ吞ミ降りテ家ニ歸リ湯
 ナリ食多ク成テ夕刻迄馬
 場君ノ出雄鳥
 食又之ヨリ
 父ト共ニ夜
 伊香保神社
 山ニテ見
 日吞

二入リ日記

八明日格名

九日

一朝早ク起キ

相馬山

ニ行リ此日清天也誓願兵

作ニ引キ第一ニ徴蕪湯ニ休

ニ相馬山ニ登リ其険ニ立

艱ニ第一険ニ入リ

即日々中迄ニリ少シク

リヲツルシ岩ヲ直立ニテ

氷ニ滑リ墮ル此如キ所敷テ所

九合目ニ至リ大ニイキ又

田クナリ終テ今日ニ至リ之

ハ人ナリ相馬將門石象ニ

寺ニ行リ駿河富士山ニ行

出根山伊音保雲格名

水天神所ヲ日首ニ見ル之ヲ

晴リ後橋名牧場ニ行

店ニ立テテ書ニ飯ヲ食

又進ンデ天神所ニ行

ニ進ニ下リテ格名ニ

是ニ立テ休ニ志ニ出テ人良

神社ニ登リ神ニ後御守

ヲ求メ又登リテ山ニ行

神階ニ立テ又休ニ又

馬前ニ立テテ前ニ

ニ下リテニ嶽茶屋ニ

ニ下リテ伊香保ニ



九日清天三度 八十五

一千八百七十二年三月三日
ワ洗に食するヲ成し湯ニ入り
遊び兵作来大西場君ハト
ラアヲ支凡ソ正午迄相ア
タシテ成ス三股席太郎
カハ氏專ハ朝

此紙未ハオキ
大客ヲナス由是法教ヲ採
却出今日山告殿早朝
帰来當日其日暑ク
暑ク日ハ八十五度ニ急ハ
沢敷ノ様湯出氷ヲ氷
食ス此日暑ク頭痛ヲ食
湯ニ入り散チヲシテ食
ハ森澤殿又様湯定ニテ法
馳有リ百ハ大ニナリ
チふじハ將基ヲ成スニ
三紅ノ湯茶ニ行リチ
因道宗帰リ馬場

下湯入り寝入り日記
ハ

相江山復上見得
石室之図



廿日雨正午

清

正午七時に起中湯入り
初洗と食るヲ飲シ下洗
し目湯入ハ遊グカ今日

早朝雨西降リ正午ニ至リ
法ハ松平信次郎君ヨリ
十三時五分迄ヨリハ伝来
ル阿多キ姉執少キ在
カ美シ澤敷又撮係出物毎
様おあじまハ一日ハ
暖計七十九度氷ヲ求メ有
湯ニ入り湯リチ者ナシ
敷ニ兼ル也ニハフドシテ
キ舟ヲ造リ遊グカ場見
梯子端ヨリハ

廿三日 雨天正午ヨリハ
雨也 曇リ
雨也 七十三度

上巻下付に起り六派の食る
手成す玉の書クヲ見ル
十一時頃まで又見ル書食
ク必ス今ハ少而終陽
ルカ書は用テ程長
之書結後教子孫共ニ
ハ多クあり候りと云ふ
深クハ舟カリ
遊ビカ派の後又函ノ見
舟ヲ造リテ遊ブ日記
書クヌク食シ寝ル
十四日雨大 四巻



以下

3丁

白紙

